

平成26年度第3回国民健康保険運営協議会会議録（概要）

1 日 時 平成26年11月20日（木） 午前10時00分から11時20分

2 場 所 村上市役所 第4会議室

3 出席者（※敬称略）

【委員】 佐藤和久、富樫敏栄、前川隆志、中村良平、富樫賢一、成田健一、高橋佳子、鈴木晴司、平井正春 以上9名

【事務局】 保健医療課：林課長、五十嵐国保室長、菅原健康支援室長、松田主任
税務課： 板垣課長、前川副参事

4 議 事

(1) 国民健康保険条例の一部を改正する条例制定について（資料1）

○委員：条例改正の内容は、加算額を含めた出産育児一時金が43万2千円になるということか。

○事務局：加算額については、条例で上限額を定め、規則で実際の額を定めており、規則改正により加算額を含めた出産育児一時金は42万円が変わりありません。

(2) 平成26年度国民健康保険特別会計補正予算（第1号）について（資料2）

○委員：歳入の他会計繰入金の他会計とは、国保特会、一般会計以外の会計のことでしょうか。

○事務局：法律で国県の負担を定めており、この負担金等を一般会計で歳入した上で、一般会計から国保特会へ繰入しています。

○委員：11月8日の新聞記事で、県内の2つの医療機関が過大請求していたという内容が掲載されていましたが。

○事務局：委員のご覧になった記事は、民間医療機関が国に返還するものかと思えます。村上市が会計検査院の指摘で国へ返還する今回の補正予算とは、内容が異なるものです。

(3) 平成27年度村上市国民健康保険事業計画（案）について（資料3）

○委員：レセプト点検について、医療機関の負担になっている実態にも理解をお願いしたい。不正請求と捉えられマスコミ報道されることは腹立たしいです。

○委員：村上市国保の調剤の一人当たり医療費が高い理由はわかりますか。議案書13ページの資料を見ると、ジェネリック医薬品の利用状況では、村上市が県内で一番低いわけですので、このへんから来ているのでは。原因がつかめれば、協力できるものがあると思いますが。

○事務局：原因ははっきりわかりませんが、その点も含めて皆さんからもご意見を伺い、研究していきたいと考えています。ご意見ありがとうございます。

- 委員：新たに人間ドック助成を行うようですが、どのくらいの人が受けるのでしょうか。
- 事務局：明確にはつかんでいませんが、任意でドック受診の情報提供をお願いしていて、提供いただいているのが約100人です。全体では1000人くらいにのまるのではないかと考えています。
- 委員：人間ドック助成の上限が1万円とのことですが、助成割合によるものか、一律・定額で1万円ということですか。
- 事務局：一律・定額で1万円です。
- 委員：人間ドック助成もいいのですが、特定健診の受診率をあげるため、さらに助成するという考えはありますか。
- 事務局：経費助成は考えていませんが、既に料金引き下げを実施したり、個人記録表を全員に発送したり、休日検診、もれ者検診を行うなど受診者を増やしたいと考えております。
- 委員：データヘルス計画は具体的にどのような計画ですか。
私どももデータヘルス計画を策定し、できれば市町村と連携しながら事業を進めたいと思います。
- 事務局：特定検診未受診者対策と生活習慣病予防教室に力を入れたいと考えていますが、まだ具体的なものが見えていない状況です。
アドバイスいただければありがたいですので、よろしく申し上げます。
- 委員：お話を聞いていると、横のかかわり方を密に行っていくことが大事ですね。
- 委員：国保税の収納率向上について力を入れていただきたい。
- 事務局：様々な形で対策を実施していますが、なかなか収納額の圧縮にいたっていません。収納率自体が県下で高いほうの数字ではないので、現年分を中心に向上させたいと考えています。

5 報告

(1) ジェネリック医薬品の利用状況について（資料4）

- 委員：開業医には後発品が浸透しているが、基幹病院で使用しないと利用率が上がらないのではないかと。
- 事務局：医師会との連絡調整会議で意見交換したいと思います。
- 委員：提案ですが、老人クラブあてに協力依頼や啓発活動があっても良いかと思っています。